

交通安全情報

梅雨時期は交通事故が増加する時期です！

梅雨時期は、視界悪化による“追突事故”や“歩行者をはねる事故”、水たまりでブレーキ制御が不能になる“スリップ事故”などが増加する傾向にあります。

★梅雨時期に交通事故が増加する５つの要因



・雨による視界の悪化

梅雨時は、空が曇天で薄暗い状況が続くので、視認の悪化による事故が起きやすい状況にあり、更に雨が降ると視認は悪くなり、ワイパーを使用するので視認の悪化につながります。

・雨音による車内と車外の音の遮断

ドライバーは運転時に８割以上が目からの情報により運転していると言われますが、その他は音による情報を頼りに運転しています。

梅雨期の運転時には“車内の音楽を消す”“少しだけでも窓を開ける”など、外の音をキャッチすることがより重要となります。

・雨（水たまり）による路面の悪化

水たまりが大きくなるとタイヤが滑りやすく、事故が起こりやすくなります。
大きな水たまりの中をスピードを出して走行している際、「*注ハイドロプレーニング現象」がよく起こりやすいです。

この現象の起こる原因は

○スピードの出し過ぎ ○タイヤ溝の摩耗 ○タイヤの空気圧不足 等です。

*注：タイヤと路面の間に水が入ることで、タイヤが滑りやすくハンドル、ブレーキが効かなくなる現象

・歩行者の行動の問題

歩行者は、雨天時に傘をさして歩くため、視界が悪くなります。

また、子どもは雨の日でも構わず外で遊び、急に道路へ飛び出したり道路を横切ることがあります。

・ドライバーの心理的な問題

梅雨時の運転は平時の運転に加え、「視界の悪さ」「路面悪化」「雨音」という３つの要因に更に運転に集中が必要となり、ドライバーにはより一層の大きな緊張とストレスが加わります。

★梅雨時の安全対策



・運転者は、視界の悪さ、路面の悪化、聴力の悪化という３つを意識して慎重に運転することが大切です。

・歩行者は、薄暮時や夜間時に反射材やライトを身に着ける工夫も必要です。